

家畜改良増殖目標畜種別研究会における検討状況について

1. 第 1 回研究会

次期家畜改良増殖目標を検討するため、畜種別に研究会を設置・開催し、本年 6 月から検討を開始。

(1) 開催状況

- ・乳用牛（6 月 9 日）
- ・肉用牛（6 月 8 日）
- ・豚（6 月 17 日）
- ・鶏（6 月 10 日）
- ・めん山羊（6 月 27 日）
- ・馬（6 月 24 日）

(2) 検討事項等

- ① 改良増殖をめぐる情勢
- ② 家畜改良増殖目標に係る現状と課題
- ③ 新たな家畜改良増殖目標の検討の視点について
- ④ 新たな家畜改良増殖目標について（討議）

2. 第 2 回研究会

第 1 回研究会の後、各委員より追加的意見等を頂きながら、新たな目標の骨子案を作成し、第 2 回研究会において議論。

(1) 開催状況

- ・乳用牛（9 月 29 日）
- ・肉用牛（10 月 7 日）
- ・馬（11 月 5 日）
- ・豚（10 月 15 日）
- ・鶏（10 月 16 日）
- ・めん山羊（11 月 12 日）

(2) 検討事項等

- ① 委員からの意見等と今後の方向性について
- ② 新たな目標の骨子案について

3. 現地調査

家畜改良及び生産現場の調査、関係者との意見交換等を通じ、家畜改良の取組がどのように生産現場で活用され消費につながるか等についての理解を一層深め、今後の家畜改良増殖目標の見直しに係る議論のより一層の深化を図るため、本年 8 月 20 日、現地調査を実施。

研究会現地調査の概要

8名の委員の参加のもと、8月20日、下記の機関及び畜産農家を訪問し、施設視察及び関係者との意見交換が行われた。

家畜改良センター視察では、特に肉質官能評価や受精卵分割、経膾採卵技術について活発な意見交換等がなされた。畜産農家視察では特に乳用牛の飼養管理、飼料給与等について、肥育農家視察では特に地域ブランド牛の推進への取組等について活発な意見交換等がなされた。

○ 参加委員（敬称略、順不同、かっこ内は所属研究会を示す）

氏名	所属・役職
近藤 康子	株式会社サトリービジネスエキスパートお客様ソリューション本部顧問（乳用牛）
引地 聖和	一般社団法人日本乳業協会企画・広報部部長（乳用牛）
宮田 大	北海道農政部生産振興局畜産振興課課長（乳用牛）
石川美知子	有限会社M&I事務所・生活文化研究所代表取締役（肉用牛）
那須真理子	うちのあか牛てっぼこ代表（肉用牛）
笹崎 静夫	株式会社埼玉種畜牧場代表取締役社長（豚）
石澤 直士	株式会社ゼンケイ代表取締役社長（鶏）
小谷あゆみ	フリーアナウンサー、エッセイスト（めん山羊）

○ 視察機関等

1. 独立行政法人家畜改良センター（本所：福島県新白河）

- (1) 家畜改良センターの業務概要の説明
- (2) 肉質官能評価の説明及びそのデモンストレーション
- (3) 受精卵分割手技のデモンストレーション
- (4) 経膾採卵（OPU：Ovum Pick-Up）のデモンストレーション
- (5) ブラウンスイス種の放牧風景の見学

2. 酪農家（K牧場：栃木県那須塩原市）

K牧場は、自給飼料に立脚した酪農経営の一貫として、経産牛1頭当たり25aの飼料作物の生産を行い、土地利用型酪農を実践。経産牛165頭を飼養し、体型、長命性などの改良に努めている。収益性向上のため受精卵移植技術により和牛子牛の生産も実施。

3. 肥育農家（N牧場：栃木県那須塩原市）

N牧場は、和牛18頭を肥育し、年間10頭を出荷する稲作兼業農家で、稲わらについては100%自給。那須和牛振興協議会副会長を務めるなど栃木県のブランド牛「とちぎ和牛」（地域ブランドは「那須和牛」）の県内一貫生産を推進。県内産肥育素牛を導入し東京食肉卸売市場へ出荷。